

媚びない政治、ブレない政治、おごらない政治

田沼 新聞 23号

千葉維新会・田沼隆志

〔千葉市議会ですべて一人の保守系無所属〕 議会報告



●参院選を振り返って ～バラバラ民主党への不安～

参院選が終わりました。私が側面支援した日本創新党は敗北しましたが、**民主党が過半数割れたことは良かった**と思います。もし過半数なら暴走して、外国人参政権法案や選択的夫婦別姓法案などで、日本が日本でなくなってしまう恐れがありました。市政混乱の恐れもあるため、大変危惧していました。

菅総理が唐突に消費税をあげたことが敗因と言われますが、真の敗因は、そういうことを党内でちゃんと議論し決定する体制の欠如ではないでしょうか。民主党は政策決定のプロセスが確立していないなと感じます。**政治信条もバラバラで、党内抗争も多く、一枚岩とはほど遠い**。政権交代だけを目標としてきたため、政策の貧弱さや矛盾、党内不一致などが露呈したのは、ある意味当然かもしれません。

選挙は終わりましたが、日本の危機は続きます。経済成長、財政再建、地方分権、少子高齢化、安全保障など、全力で対処せねばならない重要課題は山積みです。**政界再編、そして真に日本を再建する新しい体質の党の誕生に、引き続き期待**します！



有楽町マリオンで応援演説をしました

●こんなに違う、熊谷市長との政治哲学



6月議会では、就任1年となる熊谷市長の、政治家としての基本姿勢に迫りました。しかし**市長の国家観・家族観も、ことごとく私とは見解が違いました**。また、「ガラス張り市政」を掲げて市長になったにも関わらず、**選挙違反疑惑や脱法献金疑惑**など、政治の信頼を失いかねない行動も重ねています。

同じ若者同士ですが、**ここまで、政治哲学も「クリーンさ」も違うと、大変残念**です。ですが引き続き、まっすぐぶつかっていきます。



熊谷市長にこんな質問をしました！

こんな答弁でした

市長は「外国人参政権は時期尚早」と言う。しかしその根拠は「議論次第、外交次第」と曖昧で、時と場合によっては賛成しそうだ。明確に、憲法違反と考えないのか？

自分は憲法学者ではない（だから違反かどうか言わない）。**（田沼：行政の長として、憲法に対してこの答弁は無責任では？ 答弁内容も、逃げの論法。賛成するときの逃げ道も用意してあります。こういうご都合主義の姿勢では信用できなくなる。私は明確に反対！）**

「選択的夫婦別姓」は、親子別姓となり、家という単位が壊れるおそれのある、極めて危険な法案だ。市長の賛否は？

国会審議の動向見守る。個人的には賛成。**（田沼：親子別姓を認めるとは… 私とは家族観が違い過ぎるようです）**

稲毛区補選での、市長の選挙違反疑惑は、地検も告発状を受理し、起訴されるかもしれない状況だ。それでも何の説明もしないのか？

疑惑を持たれる事態となったことは真摯に受け止めている。告発については当局の判断を待つ。**（田沼：また説明なし…ガラス張り市政はウソ？）**

次の選挙でもまた同じように、市長という全市民の代表でありながら、特定候補を応援するのか？

適切に判断する。**（田沼：老練な言い方ですが、実質、応援しているようなもの。全く反省なしですね…）**

【小川議員の質問】市長が開いた政治資金パーティは、政治倫理条例に抵触するのでは？ 市職員も議員も給与カットしているのに、市長のみ資金獲得では、倫理的に問題では？

問題ないと考えている。**（田沼：市政の刷新、信頼回復が急務なのに… 非常に残念です）**

【同】NTT労組の政治団体「アピール21」によるチラシ購入は、脱法献金（※）では？

※脱法献金疑惑：アピール21は、本来無償で配布する熊谷市長のチラシを、製作費（一部10円以下と推定）よりはるかに高い額（一部200円）で買い取った。その差額が実質的な献金となるが、公選法にはこれを禁じる規定がなく、献金の抜け穴であるともいわれている。

●行財政改革で、改めて改革の徹底を要求！

3月議会で私は、行財政の改革徹底を提案し、当局も「項目ごとに内容・工程・数値目標を示す」と答弁していました。しかし、完成した**行革プランは、それとはかけ離れたものでした…**。そこで、**改革徹底について再び強く要求**しました。

「行政改革推進プラン」は、数値目標もほとんどないし、「財政健全化プラン」との連携もできていない。これで改革ができるのか？

行政改革推進プランの目的は、仕組みや手法を見直すことにあり、収支不足解消を目的としていない。**（田沼：数値目標も、連携も、不可欠です）**

「財政健全化プラン」は立てただけではいけない。「やったけどできませんでした」は、もう許されない。実現性を高めるための取り組みや工夫は？

予算金額を配るのを留保したり、各部局からの見積もりに上限を設定するなど、目標の確実な実現を目指す。事業の見直しも、市民の意見を参考にする。**（田沼：前進して頂きました。でも依然、要注意。しっかり見守ります）**

●変わらない教育委員会にがっかり…男女同質教育には反対です！

「ジェンダーフリー思想」というものがあります。ジェンダー(=性別)の区分けから、フリー(=自由)になろうという思想です。これは言い換えれば、男女同質を目指しており、**男らしさ・女らしさを否定する、極めて誤った思想だ**と、私は考えています。男と女は違います。男は男らしく、女は女らしくあるのは自然の摂理だと私は思います。男女「差別」はいけませんが、**男女「区別」は必須です**。

しかし教育委員会は、ジェンダーフリー思想に基づいた教育を、実質推進してきました。小学1年生の児童を「くん」「ちゃん」と呼び分けずに、男女一律「さん」付けしたり、名簿を男女混合にしたりです。これでは**小さな子に「男の子」「女の子」というアイデンティティを正しく認識させることはできません**。そこで教育委員会に対し、男の子・女の子の区別教育について、追求しました。

こんな質問をしました！

こんな答弁でした

子供の頃、自分が男の子・女の子であるという認識は、アイデンティティの基礎でとても重要。いま多くの学校では小学1年生の男子児童まで「さん」付けて呼ばれている。「くん」「さん」に区別すべきでは？

やらない。各学校現場に任せてる。
(田沼:呼び方など細かいところで、常識が伝わる。ぜひ現場で検討を！)

市が男女混合名簿にしたのは、県教委からの「01年通知(※)」を参考にしたとのことだが、その通知は今年5月に、混乱を生むとして、廃止された。これを受けての、市の対応は？

01年通知はあくまで「参考」として市に送付されたもの。この件について言及する立場にない。
(田沼:参考にしたのに、言及できないとは、意味不明です...)

(※) 堂本県知事時代に県教委から出された「学校におけるジェンダーフリー教育の推進及びジェンダーに関する環境の見直しについて」という通知。
(1)積極的にジェンダーフリー教育を推進する (2)学校生活をジェンダーフリー環境に整える など、ジェンダーフリー教育を推進する内容だった。

現場ではジェンダーフリー思想に基づく、男女混合名簿が使われている。しかし教育委員会は「ジェンダーフリー教育はやっていない」という。これは矛盾では？

委員会としてはジェンダーフリー教育はやっていない。
(田沼:回答になっていません...「やっていない」と言っても現場ではやっているのです。男女混合名簿は、即廃止を！)

昨年の12月議会と同様、今回も**教育委員会の「変わらないさ」「無責任体質」に、再びがっかり**する結果となってしまいました…。これを変えるには、**もっと私に実力や影響力などが必要**です。男女同質教育は認められない。今後も、子供たちのため、日本の未来のために、**根気強く**取り組んで参ります。

【ご参考】議会質問に先立ち、ブログ・メールマガジンで、以下アンケートを実施

● 小学1年生の男子児童を「さん」付けて呼ぶことに、違和感を感じるか？

・感じる	87	74%
・感じない	26	22%
・わからない	5	4%

● 男女混合名簿に、違和感を感じるか？

・感じる	82	70%
・感じない	31	26%
・わからない	5	4%

回答者118名の結果は、なんと「**4人に3人が違和感**」。教育委員会の常識と、世間の常識は、**大きくずれているかもしれない**ことを、よく考えてもらいたいです。

●第1回市政懇談会、大成功！！

市議会議員になって、初めての市政懇談会を行いました。市政「懇談会」としたのは、「報告会」だと、持論の一方通行でつまらなく、「お話を聞かせてください会」だと陳情の一方通行になってしまうからです。双方向の流れが重要ですので、**ざっくばらんな意見の交換「=懇談」と**しました。

今回は告知を十分に行っていないにもかかわらず、多くの方にご参加いただき、田沼事務所がいっぱいに。主に補欠選挙でお訴えた「政治の体質を変える」「行財政改革」「教育建て直し」について、ご報告。そのあと地域の方々から、活発なご質問やご提案を頂き、**非常に充実した懇談会**となりました。お越し頂いた方もみな「よい会だった」「よくわかった」と**ご満足頂けたようで、私も多くの示唆を頂きました**。



こんなご意見・ご提案を頂きました！

こんな回答をしました！

この懇談会は、1か月に1回の頻度で、規模は100人位集めてやるべきでは？

100人規模は難しい。場所の確保が一番のネック。まずは、大きさにこだわらずに地道に各地で懇談会を続けていきたい。
各地での場所確保に、ご協力をお願いします…！(皆様も！)

山田宏・前杉並区長が行った行政のスリム化(採用数を減らして、10年間で2割の1000人を削減)は素晴らしい。借金約1000億円をほとんどゼロにし、更に貯金を数百億円に増やした。

その通り。やればできる。千葉市の沈没を防ぐには、コストダウン。そのためには無駄な仕事の削減。人が多いと、その人に仕事をあたえなければならず、仕事の削減が出来ずに予算も増えてしまう。だから人を減らすしかない。採用を縮小すべきだ。

議会は何をやっているのか。もっと仕事をして欲しい。議員提案なども積極的にすべきでは？

若手の議員は頑張っている。超党派で提案したいとも思ってる。田沼個人としては、同志を増やして力をつけたい。

他にも、名古屋市長や阿久根市長の話題などを参考に、「議員定数や議員歳費に関して」や、「議会と行政の関係・あり方」に関する意見交換も行いました。更に、参院選や新党、また私自身の政治的進路などについても、建設的なご意見を多数いただきました。

私は大げさな「懇談会」でなく、ひとりでもふたりでも、**呼ばれたところには原則行く**ようにしています。今度は、応援いただいているオバサマ方中心の懇談会も開くことになりました。そういうところでは、**歌も歌おうか**と思っています。どなたにとっても身近な話ができるよう、努めますので、**ぜひご招待ください…！**

千葉市議会議員・田沼隆志

- ・昭和50年(1975)生 34歳 園生町在住
- ・園生町生まれ。園生幼、小中台南小、小中台中、千葉東高、東京大学経済学部 卒
- ・平成21年秋の千葉市議補選にて、最高位当選

市政へのご意見をお寄せ下さい！

TEL 253-9610 (留守電でも必ずお返事します)
FAX 253-7255
Mail tanuma@tanuma.info (本人直通！)
事務所 小仲台4-14-8 (土日午後は開けています！)



●ツイッター、メルマガ 好評です！

活動の様子や見解を、短く頻繁にツイッターで「つぶやいて」います！また、メールマガジン「田沼ニュース」ではもっと具体的に、近況などを直接お送りしております。どちらも非常に好評です！登録も簡単なので、ぜひ登録してください！

twitter は ⇒ <http://twitter.com/tanumatakashi> に行き「**いますぐ登録**」してください！
メールマガジン は ⇒ tanuma@tanuma.info 宛てに「**メルマガ希望**」とメール送信ください！